



ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

群馬県都市計画協会と群馬県の共催、(公財)群馬県建設技術センターの協賛による「ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム」が令和5年7月14日(金)、昌賢学園まえばしホールにて開催されました。本年度は「防災まちづくり」をテーマに掲げ、東京大学生産技術研究所教授・同大学社会科学研究所特任教授の加藤孝明先生のご講演、板倉町総務課からの事例発表が行われました。

基調講演『気候変動の時代のまちづくり』

近年、気候変動の影響等により水害が激甚化、頻発化しています。水害リスクの増大に備えるためには、行政・企業・住民など流域全体のあらゆる関係者が協働して「流域治水」への転換を進めていく必要があります。

加藤先生からは、「大型台風の増加や集中豪雨等で降るときは極端な気象現象になり、治水を河川管理者だけに任せていい時代ではなくなった。では、どう地域社会で取り組むのか」との問題提起と、その取組における外してはならないツボ(要所)として、災害リスクの確実な理解、持続的な「自助」「共助」「公助」の実現、「防災【も】まちづくり」(防災の取組と日常の取組をできる限り重ね合わせることによって防災の持続性と推進力を高めていく、という考え方)などを示され、治水対策を「流域治水」へと転換するパラダイムシフトが必要とご説明いただきました。

また、浸水に対応するまちづくりを前に進めるエンジンとして、浸水と親水をバランスさせた東京の事例を紹介していただきました。

加藤教授、貴重なご講演をありがとうございました。また、昨年度、群馬県が全国に先駆けて策定しました「防災指針策定ガイドライン」のアドバイザーとして、ご尽力、ご指導いただき、改めて感謝申し上げます。



加藤孝明教授

事例発表 板倉町命を守るまちづくり「洪水時緊急避難場所事業」について

板倉町では、町の9割以上が浸水想定区域となり、ほぼ全町民が避難対象となるため、避難所が絶対的に不足していることが判明。そこで、令和4年度に都市防災総合推進事業を活用して車中避難可能な緊急避難場所を整備しました。また、より実効的な避難を実施するため令和5年5月に「板倉町洪水時住民避難計画」を策定し、それに基づいた避難訓練を実施されています。整備した緊急避難場所や避難計画が、いざという時にきちんと機能できるよう、毎年の避難訓練等を実施する板倉町の危機意識の高さが伝わる発表でした。

業務多忙の中、事例発表いただきありがとうございました。



板倉町総務課長谷見様、坂井様



事例発表の様子